



「浦和のさかえに 歴史をほこる」開校155周年 YEAR を迎えて

# 大いちょう

令和 7年 8月27日  
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和7年度 No. 5

048 (829) 2737

## 自ら考え楽しむ活動の実現を目指して

校長 永 山 誉

39日間の夏休みも終わり、本日からいよいよ2学期。連日の猛暑が収まる様子もない中での2学期のスタートとなりました。8月23日は二十四節気の処暑（しよしょ）、この頃から夏の暑さが和らぐと言われ、朝夕には涼しい風が吹き、心地よい虫の声が聞こえてくるはずですが、いかがでしょうか。国連のアントニオ・グテーレス事務総長が、2023年7月の異常な高温を受けて、気候変動の危機が「地球温暖化」の段階を通り越し、これまでにない深刻な状況にあることを表現するために「地球沸騰の時代」という言葉を用いましたが、今年も例外なくこの言葉が当てはまる状況です。9月から10月にかけては、これまでの暑さも和らぎ、穀物が実り始める季節を迎えますが、地域によっては深刻な水不足とこの暑さにより、その収穫が心配されるところです。子どもたちも、しばらくの間は熱中症対策が欠かせないものとなりますので、御家庭におかけましても、引き続き御協力の程、お願い申し上げます。

さて、話は変わりますが、この夏休み、子どもたちはどのように過ごされましたでしょうか。夏休みでないと味わえないような貴重な体験や経験をすることはできましたでしょうか。猛暑が続き、時には局地的豪雨が発生するなどし、子どもたちの活動も室内に制限されることが多かったかもしれません。私は、この夏休みの期間に、浦和レッドダイヤモンズにも在籍し、オランダやドイツなどの海外のクラブチームでも活躍された 小野 伸二 氏の話聞く機会※があり、2学期に向けて次のようなことを感じましたので紹介します。

小野 伸二 氏は話の中で、最近の子どもたちのサッカーは教えすぎていないか考えるところがあると言っていました。サッカーで大切なことは、自分で考える時間を持つことであり、サッカーを心から好き、心からやりたいと思って、主体的に取り組むことが、上達につながると言っています。また、主体的に取り組むことができるためには、楽しむ、楽しめるものを見つけることが大切であるとも言っています。この会に参加した、さいたま市内のある校長は、「学校は楽しいところではなく、楽しむところである」と子どもたちに話をしていると言っていました。世界を股にかけ活躍してきました 小野 伸二 氏は、「過去はどうにもできないが、未来は創り上げられる」という意識を常に持ち、サッカーを心から愛し、自ら楽しんできたからこそ、チャレンジし続けることができたのでしょう。

自ら楽しめるものを自分で見つけ、自ら考え、自ら楽しもうと主体的に取り組むことが子どもたちの成長につながることを、小野 伸二 氏の話伺い、改めて感じた夏休みでした。

本校では、この2学期は、開校155周年記念事業を中心とした様々な活動が展開されます。155周年記念運動会に始まり、記念式典や記念音楽会など、子どもたちには、主体的に考え、自ら楽しむ活動となるよう、教職員一同子どもたちの活動を支えていきたいと考えています。保護者の皆様、地域の皆様には、2学期も引き続き学校教育への変わらぬ御支援と御協力をよろしくお願い申し上げます。